

No. 2

昭和 61. 3. 1

- ・松陰敬仰の気運醸成
- ・松陰精神の継承普及
- ・松陰教学の研究振興

○編集発行 財団法人松風会
〒753 山口市大手町2-18
山口県教育会館内 TEL. 0839 (22) 1218



会報

松門

秋田県大館市に篤志家の熱意によって、模範松下村塾が完成したのは一昨年十月のことである。落成式に萩市が招待されたので私が参列することになった。大館に行くのに国鉄を利用することにした。それは新潟から羽越本線、奥羽本線を乗り継いで大館に行けば、ほぼ松陰先生の東北遊歴のコースに重なることになり、まことに興味深く思っていたからである。

列車に乗ると車窓からは、松陰先生の日記に出てくる山・川・島や村落などの名前が、記述のとおり顔を見せてくれるのはなほだ愉快である。『海に沿って大川に至りて宿す。この間海上に常に粟島を見る。……』とある所ではまさに粟島が見えるし、男鹿の『二島かとおもひ、やや近づきて又一島かとおもひしに、長浜に至りて初めて其の内地と連れるを知りぬ』の記述も現状そのままである。



みちのくの松下村塾

萩市助役

井町新熊

さて大館市は広々とした盆地の中心にある活気を感じられる町である。市の職員の方のご案内で落成式場に着いた。「竹村記念公園」と筆太の文字の彫られた石の門柱を見ながら進むと、



大館市の松下村塾

そこに松下村塾があった。周囲は樹木や芝生が植栽されベンチも置かれて、小公園として美しく整備されている。敷地の一方

「自分が生まれ育った郷土に

大館市の松下村塾は、大館市出身の成功者故竹村吉右衛門氏の遺志と寄付金により、(財)大館鳳鳴高校振興会(竹村氏母校の後援会)が建てたものである。

振興会は、松陰先生の思想は、大館出身の先覚者の影響が甚大であったこと、竹村氏の郷土愛を語り継ぐために模範としたと語っている。

竹村氏は生前その動機を次のように述べておられる。

「一方玉川学園にも松下村塾の模範があるのを見て、自分の郷里にも何とかして模範したいと考えようになった。」

大体右のような経緯で大館の松下村塾は完成したのだ。萩から遥かに遠いみちのくに松風は確かに受け継がれている。そのいっそうの発展を切に祈る。

は一段低くなつて、ちびっ子広場に続いている。公園の中央にある村塾の建物は、萩の松下村塾そのままである。松陰全集を読んで深く感動した。松陰先生は志士として教育者として、又その家庭的背景も真に範とすべきものがある。大獄に連座して斬に処せられたが時に年三十歳。これを知った私も三十歳。同じ人間で雲泥の違いを恥じた。

さらに大館市にある、狩野良知、亨吉両先生頌徳碑に『良知先生の若年時の終世論なる三策は、吉田松陰の心を動かし、松下村塾で儒教的王道政治の理想を当代に発揚させた論策である……』とあるを読んでわが故郷は松陰と縁浅からぬことを心に留めた。

何かお役に立たせて頂きたい。と。青年時代人間形成の上で最も強い刺激を受けたのは松陰先生である。戦時中世田ヶ谷に住んで毎早朝松陰神社に参拝し、又松陰全集を読んで深く感動した。松陰先生は志士として教育者として、又その家庭的背景も真に範とすべきものがある。大獄に連座して斬に処せられたが時に年三十歳。これを知った私も三十歳。同じ人間で雲泥の違いを恥じた。

松陰神社の参拝者

(インタビュー)

語る人 松陰神社宮司 佐々木一男氏
聞く人 松風会 理事 石川 稔



——お邪魔致します。今日は松陰神社の参拝者につきまして、思い出話や感じになっていることをお聞かせ下さい。

佐々木 それでは終戦後のことからお話ししましょうか。

終戦直後は参拝者も少なく、どこの神社・佛閣も同じでしたが、ずいぶん荒廃いたしました。そのころのことで今も忘れられない思い出があります。

昭和二十二年の春、徳山のある女学校の生徒が三班に分かれ、三日間続けて参拝に來られました。その中で一班と三班は何ごともなかったのですが、二班の参拝の時でした。引率の先生が生徒をお蔵(松陰神社の神殿)の前に並べて「敗戦によって神社・佛閣はこのような荒廃したが、松陰先生というお方は戦前にも増して世の中に出られるお方である。将来家庭の主婦となり子女の教育に当る者は、松陰先生の教えをよく噛みしめて心に刻みつけておくように。」と諭され、松下村塾や杉家旧宅を見学されました。

今思うと、この先生は偉い方だったなあと敬服いたします。

昭和二十四年の春ごろから参拝者も年々多くなりました。そのころもう一度感心したことがありました。

丁度秋の例大祭の時でありました。祝詞奏上^{のり}の時でありましたので私どもは平伏^{ひらふし}していて周囲の光景は見えませ

んでしたが、小学校高学年から中学一二年位の修学旅行生だったと思います。引率の先生が「松陰先生は教育の神様として多くの方がお敬い申しているお方である。だから今日萩に來たお土産は、品物を買って帰ればいいというのではなくて、松陰神社にお参りしたその気持ちを大切にし、それを家に持って帰ることだ。」とおっしゃいました。それを私共は平伏したまま聞いたのですが、祝詞が終った時には、もう生徒も先生もいらっしやいません。みんなで今の先生は偉い先生だあと話したことです。これはやっぱり、先生が偉いんですね。

——そうですね。子どもも引率してお宮やお寺に参拝するということがありますが、同じ参拝しても、先生によってその意味ががらっと変わるといふことですね。

佐々木 やはり終戦後のことですが、修学旅行生を引率して來られましたも、その玉垣のところ^{たまがき}に生徒を集めて「君達だけで自由に参拝して來なさい。」とか、引率しておられても、お宮は避けて史跡^{しし}だけを見学して歸られるという先生もありまし

た。私がまだ若く元気なころでしたから、「先生、今のやり方は違うんではありませんか。ここで注意されなくても、学校をお出になる時ご指導になるのが本当ではありませんか。子どもの中には、親から『萩に行ったら松陰神社に行くだろうからよくお参りして來なさいよ。』と言われてる者もあることでしょう。しかし、先生が神社を避けて引率されたら、お参りしようと思っただけの子どもは、お参りできないではありませんか。」と申し上げたものです。

——終戦直後の一時期、たしかにそういう時代がありましたね。公教育において信教の自由を妨げることはいけません、神社、佛閣と関連をもつ大事な教育は現代もたくさんありますね。要は、やはり先生の教育観ということでしょうか。

ところで新しい神社ができたのはいつごろだったでしょうか。

佐々木 昭和二十九年でした。その翌々年の三十一年に隣接して松門神社ができました。これはご承知のように旧神殿のお蔵をそのまま松門神社の神殿にしたものです。

昭和三十四年には松陰先生没後百年の大祭が盛大に行われました。さらに昭和四十二年の明治百年が一つの契機となって、参拝者が飛躍的に増加しました。——現在どの位の参拝者があ

るのでしょうか。
佐々木 毎年四月に市の観光課が、観光客の概数を発表していますが、二百万位ではないかと思ひます。観光客の調査をするのには松陰神社が最適(萩の観光客は殆ど松陰神社に参拝する)なので、市の方が入口に居て、バス一台は四十五人とか、常用車なら三人とか四人とか基準を決めて調べておられます。しかし若干の誤差を考えますと、まあ、百八十五万から二百万というところでしょう。

神社の前に歴史館があります。あれにお入りになる方が参拝者の約一割とみえていますので、大体二十万でしょうか。

——あの歴史館はどういういきさつでできたのでしょうか。

佐々木 神社神道では教化^{けくわ}ということを非常に重視しています。幸にこの神社には松下村塾や幽囚^{ゆうきゅう}の旧宅が保存されていて無言の教化^{けくわ}の場を持っているわけです。そこで私はかねてから

もう一つ「目で見る松陰先生の「一代」ということで、何かいいことはないかと長年考えていました。一時は、いくつかの絵でそれを構成してみようかと思っただけもありました。

ところが昭和五十二年でしたか、NHKの「花神」が放映された年に、今の歴史館、あれはもと体育館でありましたが、そこで大村益次郎の一代を人形を使って展示したことがありました。私はいいいヒントを得たので、早速その「ろう人形」をお作りになった社長にお会いして、「私はこういう計画を持っているのですが、人形を使ってできるでしょうか」と相談を持ちかけたわけです。

社長の話では「それはできません」ということで、私の方でもいろいろ資料を提供したり、講談社の絵本を探して来たりなどして、一年で開館に漕ぎつけました。社長も大変ご熱心な方で、月に一度は必ず、多い時には二度も東京からみえておりました。

——そうすると経営はその会社になさっているのですか。
佐々木 そうなのです。C・P・Aという「ろう人形」を作られる会社ですが、神社の方は

あの建物（旧体育館）をお貸ししているわけです。あの建物は昭和三十四年の百年祭の時に、高松宮様がおみえになり祭礼後の直らい会場として作られたものです。

——参拝者の数は季節によって多少相異があるのでしょうか。
佐々木 以前はお正月、それから春、特に四月五月が一番多い時です。六月の農繁期に入りますと一時少なくなり、八月の夏休みになるとやはり家族連れの方々が多く、九月の中ごろから十月、十一月の中ごろまで一般の方や修学旅行の生徒さん達と続くのですが、今は年間を通じて余り変らなくなりました。多い月少ない月はありますが、ゆるやかなうねり程度です。例えば今年なども夏休みが終って少し途絶えるかと思っていいたら九月に入って意外に多くの参拝者がいらっしやったり致しました。

——そういう現象の変化というのには何か理由があるのでしょうか。
佐々木 そうですね。まあ最近旅行ブームなので、業者の方々が比較的閑散な時期をねらってツアーを計画なさるよう

なことが原因かも知れません。バス会社等も閑散期には料金を安くする等のサービスをしておりますから……。

——最初から松陰神社にお参りしようという気持ちでいらっしゃる方と、観光がてらいらっしゃる方がおありと思いますが、その点について何かお感じにな



松 陰 神 社

ることがあります。

佐々木 そうですね、お参りをされる方々を一般には観光客と呼んでいますが、われわれはどこまでも参拝者と考えているわけです。観光とはご存知のように「国の光を見る」ということで、よその国の良いところを見て、自分の国の悪いところを

直そうということのようです。ここでは幸のことに、たとえ観光の目的でおいでになっても、松下村塾があり旧宅があるの、そういう遺跡をご覧になると、松陰先生の偉大さに打たれ、自然に松陰神社へもお参りしようという気持ちになられるようです。

全国にはたくさんさんの神社がありますが、ご祭神とそれに関係のある遺跡が同じ場所に存在しているというのは、きわめて珍しいことだと思います。

——そうですね、松陰先生の生涯は三十年という短い生涯でしたが、遊歴と獄中をのぞけばあとはこの杉家旧宅で生活をなさったのですから、遺跡といいますが、心にも迫るものがちがいますね。

佐々木 先ほどお話ししました徳山の先生のことばのように松陰先生は戦前にも増して世に出になり、今までにないほどたくさんさんの参拝者がありますが、戦前も決して少なかったわけではあります。私は昭和六年からここに参りましたが、朝早く起きて掃除をしていますと、もう団体の参拝者の方々がお入りに

なるという状態でした。当時は山口から来られても萩に一泊しておられました。

——最近の学生さんに関して何かお感じになることがありませんか。

佐々木 よその神社の話を聞きますと、学生さんのひどいはずがずい分あるようですが、ここではそういうことは殆んど見かけません。何か感じるものがあるのでしょうか。

最近では九州大学とか茨城大学の学生さん達がおみえになって「ここで読書会をもちたいので部屋を貸して下さい。」などと申しこまれた例もあります。グループでいらっしやって史跡見学をし、歌をよんだり読書会をもたれたりしました。

歴史館の中には感想ノートが置いてありますが、その感想文を読みましても、「松陰先生は今までよく知らなかったが、この一代記を見て本当に偉い人だ」ということを知った。という感想がたくさんあります。

——お忙しいところを本当にありがとうございます。

(文責 石川)

松陰の足跡をたずねて②

津 軽

麦川小学校長 岩野和夫

(一)

台風一過、さわやかな津軽への旅立ちであった。

松陰の東北行とは逆の道順で東北新幹線、東北本線を乗り継ぎ一日がかりで青森への旅を楽しむ。渋民、三戸、野辺地と過ぎ行く駅のたびに「東北遊日記」と読みあわせながら車窓に移り変わる景色を楽しむこと数時間、陽が西の端に傾く頃、浅虫に降り立ち明日からの行程に心を躍らせながらも、みちのくの夜を楽しむ。

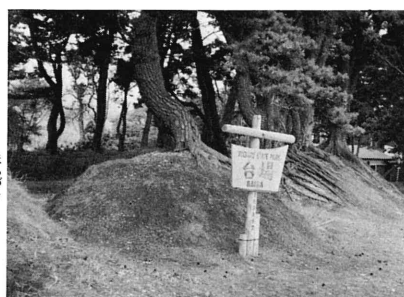
(二)

北の海は蒼く、紺碧の空は遠方よりの友を歓迎するにふさわしく、それに応じて私達も心を躍らせて今日一日の案内役を引き受けて頂いた漆畑先生と合流した。

漆畑氏は青森県歴史の道整備促進協議会の事務局長で特に吉田松陰を敬仰され「みちのく松陰道」の整備に心を尽されてい

る方である。

青森湾に沿った津軽線で蟹田まで行き、そこからは手配の車で平館まで松前街道を北に走る。途中、松陰が青森まで便乗した二矢の集落を過ぎた。平館には松陰が北辺防備のようすを見た中で最も造りがよいと記している砲台跡を見たが、今も昔の面影をしのぶことができた。



平館の砲台跡

車はさらに幾月海岸道路を三厩へと走る。途中松陰が日記に「上月に宿す」と書いている所を探したが上月の地名はなく、幾月という集落がある事から土地の人の発音からこのように聞

きとり書きしるしたものと思える。

(三)

三厩へ着く。車を乗り替え、算用師峠、竜飛崎を訪ねた。

松陰が小泊から三厩への難路「寒澤」と名づけた峠を見る。

小川に沿って山地に入ると、そこにはアオモリアスナロの原生林にかこまれた山道がある。その道こそ、今は歴史の道整備促進協議会の手で整備され「みちのく松陰道」と名付けられ、ハイキングをしながらか歴史について学ぶことが出来るようになっていく、かつて松陰の歩いた道である。算用師峠の入口には大きなアスナロの原木に「みちのく松陰道」と刻まれた標柱を見ることが出来、この津軽の地にも松陰は生きていくとの感激を新にし、しばしその場に立ちつくり去るに忍びない気持ちにさせられた。

去年の今日巴城を発し、楊柳風暖かに馬蹄軽し。今年北地更に雪を踏み、寒澤里路行難し。行き盡す山河萬夷の險、滄溟臨みて長鯨叱せん欲す。時平かして男児空しく恍惚す、



みちのく松陰道

地を一本の林道は私たちを日本海側へと運び小泊に到達する。ここで松陰はじめて松前の山々を見た。そしてその余りに近きことに驚い

誰れか追わん飛将青史の名。

と松陰が難渋した算用師峠に別れを告げて竜飛崎へと向かう。竜飛崎には松陰は直接訪れてはいないが、「戸を推して望むに、松前の連山、咫尺の間に在り」と三月五日朝、小泊の宿から津軽海峡のせまさと海岸防備の必要性をこめて記している。竜飛崎から見る北海道は屋型まで手にとるように見えたが、この海峡の下では長い年月と優れた技術によって青函トンネルが貫通へ向けて掘り続けられている。竜飛崎は、その本州側の基地となっている。

(五)

中里町役場では助役から歓迎を受けると同時に町誌にある藩政時代、北辺の海に出没した異国船に人々が恐れを感じていた事などが残されているのを見せてもらい、松陰の国をおもふ心とその先見性、行動力にまたまた驚く。

(四)

アオモリアスナロとブナの原生林の中に海拔五百米の津軽山

さらに車を乗りつぎ、中里、



松陰遊賞の碑

を過ぎ、はじめ
て津軽の地で宿
したのが、弘前
であり、さらに
津軽藩の事情を
知るために訪ね
たのが儒者、伊
東広之進(梅軒)
であった。

それは熱気あふるものであつ
たと思う。
男児北夷陣を略せん欲す、
いかせん吾百萬の師なきを。
なお祈ふ 半日高堂の話、
幸に此行為に一奇添えしを。

松陰は「談論之を久しゅうし」
と別れを惜しみつつ弘前をあと
にしている程である。
白萩の花がほのかな燈りに浮
かぶ庭を後に宿に入る。

津軽での松陰の足跡をたずね
る旅をして深く感じることは、
松陰は東北行を通してその土地
その土地の人の心を動かすもの
があったということである。
しかも、そのことは一五〇年
の歳月を経た現在も、それぞれ
の土地の人々の心に生きている
ということがこの度の旅を通し
てわかった。即ち何事にも、誰
に対しても「至誠」を尽された
のである。

金木を経て五所河原から弘前へ
と急いだ。途中、赤堀なる所で
は廃校となった学校跡に、「松
陰昼食の地」と記した小さな木
碑があったが、その台がコンク
リートの手造りである。話によ
れば当時の教員の手で造られた
もののようであり、コンクリー
ト台に刻んだ六、七名の名前も
今では判読さえも出来なくなっ
ている。残念であった。

さらに岩木川に沿って行くと
道端に「松陰先生渡舟の跡」と
いう石碑があり、横に渡舟場の
あった由来などが書かれた説明
板もある。ここは「みちのく松
陰道」の経路に当る。

車は夕暮れの五所河原、鶴田、
藤崎と一面のリング畑を走り続
けて弘前を目ざす。

(六)

矢立峠を越えた松陰は碓ヶ関

暮れて弘前に着いたが、その
足で会談をした「松陰堂」を訪
れる。ここは伊東家や弘前市に
よって保存され、今でも訪れた
者に当時の会談の熱気を感じさ
せられる。
式台をあがると正面のふすま
に松陰が算用師峠を越す時に作
った漢詩が書かれ、会談の部屋
の周囲は、「東北遊日記」が漢
文のまま八枚のふすまに大書さ
れ、胸をうった。なお、正面に
掲げられている「半日高堂話」
の扁額は山県有朋の書であり、
訪ねた人に松陰の面影を強烈に
印象づけるに十分である。

しばし座して広之進と松陰の
会談のようすを想い、感動のこ
みあげる中で、手にした東北遊
日記の三月朔日、二日の項を読
みあい、遠い津軽で松陰が伊東
広之進という友と出合い、喜々
とした会談の状況を推察する時



伊東家の松陰堂

松陰もこの弘前で二夜を明か
しているが静かな宿の一室で山
口から訪ねた者と一日案内をし
て頂いた漆畑先生をかこんでの
話は松陰によって結ばれた縁の
強さを感じさせた。

(七)

次に、津軽の地に松陰の心を
今日の世の中に広め、語り続け
ようとする活動が熱心に展開さ
れているということであり、松
陰との関わりがあることに誇り
さえ感じている。
「みちのく松陰道」の整備と
青少年育成活動、さらには詩碑
建立活動、松陰読本青森版の発
行等々、松陰の足跡を偲び、松
陰に学ぶ県民づくりに努力され
ている状況を知り、山口県人と
して、冷汗の出そうな気持ちに
させられたものである。
山口県人であるわれわれは、
もっともっと松陰研究と実践活
動を教育現場に普及振興しなけ
ればならないと強く決意して筆
をおく。

前略 過日徳山でのご講話を
反題していてお礼が遅くなりま
した。

一つ解けないことがありますし
た。それは松陰ほどの先見人が
九〇%まで失敗することがわか
っていることを、次々に仕掛け
たことでした。変革は大きけれ
ば大きいほど、基礎から一步一
歩積み上げるべきではないかと
思うことと、死を早めたことの
思想と行動の内面が分りかねて
いました。

あなたの解釈はまことに卓抜
でありました。経験があつて個
人があり、経験は個人の全歴史
を開く。経験は合理を超えてゆ
く。西田哲学の純粹経験も分り
ます。非合理でなかったら、三
島の宿の憤りと恋々も無かった
と思います。

それにしても現実世を挙げて
「合理的」が風靡しているで
はありませんか。花壇コンク
リ然り、研究指定校然り、学習
塾然り。松下村塾、咸宜園のよ
うな自主学校ができていかない
ものでしょうか。

十一月九日

山 本 郁 祐

(徳山市平原町11-22)

三輪稔夫先生御机下

松陰先生の遺文を拝読していると、思わず目を見張るような名文に出合うことが屢々あります。その二三を紹介しますと、例えば弘化四年、先生十八歳の時の未焚稿「寡欲録」の中に自ら以て俗輩と同じからずと為すは非なり、当に俗輩と同じかるべからずと為すは是なり。蓋し傲慢と奮励との分なり。(吉田松陰入門20頁)

という文があります。気を付ければ見逃してしまいそうな文章ですが、近頃特に感銘を深くしています。私はかつて図書館に職を奉じたことがあり、全国の研究大会等にも出席する機会がありました。その際、盛んに「図書館人」という語が使われていたのを思い出します。耳馴れぬことばで、然も何だか独りよがりの気もして好きになれませんでしたが、その後同様なことばを各方面から聞くようになりしました。今では議会人、文化人、大学人、新聞人、音楽人等々と随分多く使われています。特定の職業に就いている人々を第三者が何と呼ぼうと、それは勝手なのですが、ここで△△人と呼ぶのは殆んどが自称なのです。だとすれば「寡欲録」に言

う「自ら以て俗輩と同じからずと為す」気持ちがいささかでも働いて居りはしないか、万一そのような意識があったとすれば、それは「傲慢」のしるしだから排すべきだと先生は言われるのです。それならば万事平等圓滿、他人と同じ程度に程々に過しさえすればそれで良いかというに、さに非ず、「当に俗輩と同じかるべからず」と思つて奮励努力、大いに自分の能力を発揮しろと続けて居られます。「同じから

となし、公を役して私に殉ふ者を小人となす。(同140頁)

と記されています。もとの漢文に直すと「役私殉公」と「役公殉私」の四字ずつとなります。公と私の両者を取り替えただけで大人と小人、月とすっぽんの違いを示された先生の着想の見事さは全く頭が下がります。然し感心するのは先生の学識であつて、この文章の指摘するところはまことに深刻です。公私の意味が本文とやや異なりますが、

人国が次第に小人国に変わりつつあります。大楠公を慕ひ、七たび生れ替りたいと願われた先生は、今日再生して果していかなる文章を草せられるであります。

申すまでもなく「講孟割記(余話)」は先生の述作中最も有名なものの一つで、私共数人、皆さんの驥尾に付して細々ながらその講読を続けています。お蔭で内容を詳しく見る機会が得られて仕合せていますが、最近この書物の最終章、尽心下第三十七・三十八章の所で

とする私共の心の支えとなりました。そして敗戦国の君主という非運にも拘らず、未来に希望を掲げて雄々しく進まれんとされる御心を拝して、何程かお力にならなくてはという気持ちがある。その後の私の生活を律することになりました。それにしても、為去聖繼絶学、為萬世開太平。と近思録にあるこの名句が、早く先生の着目されるところとなり、「講孟割記」の最後を飾っていることは感慨深いことでもあります。

英傑の理想

下関女子短期大学教授
上田 孝治



「と「同じかるべからず」、僅か三字しか違わないのに、その間に天地雲泥の差を認めて、自ら戒めのことばとされている先生の見識には敬服の他はありません。」

同様に僅かの差で意味の全く異なる語が有名な「七生説」にも見られます。これは大楠公を仰慕して草された文章ですが、その初めの方に

私を役して公に殉^{したが}ふ者を大人

由来わが民族は「役私殉公」、隣人同胞や国家社会のためには一身を犠牲にし得る国民だと高く評価されてきました。然るに大東亜の戦い一たび敗れて後は、多くの統計資料の語るところ、国家や同胞のため進んで難に当らんとする義烈の精神は極めて寥々たる姿となりました。代つて「役公殉私」、我がため、我が仲間のための要求願望は汗牛充棟もただならざる有様で、大

年輩の方々はそれぞれに深い思い出をお持ちと思いますが、私は八月十五日の当日、これをシシガボールの台上で拝聴しました。急に隊長集合があつて馳せつけたところ、大隊長より私共数名に対して「終戦の詔書」の朗読があり、戦いの終りを告げられました。敗北の無念さは言語に絶しましたが、詔書の終りの辺で耳にしたこの言葉は強く耳に残り、ともすれば挫けん

願はくは正気を留め得て、聊か山水の色を添へん。

死してなお祖国の山河の美しさに貢献したい……。英傑の理想の何と麗しく、何と高雅なことを痛感する次第であります。

杉滝は松陰の実母、萩藩士毛利志摩の家臣である村田右中の三女として生まれた。杉家と村田家は藩士と陪臣という家格のちがいがあつたので、滝は結婚に先立ち、児玉太兵衛の養女となり、杉百合之助に嫁いだ。当時杉家の家計は甚だ苦しく半農半士の自給生活を強いられていた。家格はちがっていても村田家の方は、比較的裕福であ



杉 滝 の 像

つた。松陰の生まれた護国山麓の山宅は、百合之助と滝の結婚に際し、婚資として村田家を用立てたと伝えられている。

滝が嫁いで数年間の杉家の家族は、夫と姑のほか二人の義弟吉田大助（松陰の養父）、同玉本文之進（松陰の師）も杉家に同居していた。そのうち長男梅太郎が生まれ、つづいて次男寅次郎（松陰）長女千代が生

まれた。杉家は文字通り大家族であった。

滝は生家では体験したことのない貧困と大家族の世話という艱難を一身に担って励んだ。

姑への孝養は言うまでもなく、夫に仕え子女の養育につとめ、かたわら農事を助け、自ら馬を使った。

松陰三・四歳のころ姑の妹が病氣のため杉家に寄寓した。この時も滝は貧困多忙の中を三児の養育をしながら病人の看護につとめた。それでいて不平不満の言動は微塵も表わさず、常に温容慈顔をもって家族に接した。姑は涙して滝に感謝し、峻厳で聞こえた義弟玉本文之進さえ「丈夫も及び難し」と絶賛した。

松陰をめぐる人びと(2)

杉 滝 石 川 稔

門人達をわが子の如く愛し、寝食、身辺の世話に献身した。また客人の来訪を心から歓迎し、風呂と食事を接待することを無上の喜びとした。

松陰の限らない人間愛は、たぐい稀な杉家の家風によって培われたものではあるが、とりわけ母滝によって育まれた面が大き。

安政元年下田踏海に失敗した松陰は、同年十月、江戸獄から萩の野山獄に移った。杉家の人々は獄囚生活を送る松陰に、能う限りの慰撫の手を差しのべた。特に滝は母の慈愛をそのまま獄中に持ちこむかのように、衣食住に関し細心の心遣いをした。松陰の好物を誰よりもよく知っていた滝は、それを調え、湿気の多い獄中生活を心配して、油紙の敷物を作り、不潔不衛生を防ぐために、度々着替えを届け

た。その連絡役は、ほとんど松陰の兄梅太郎があつた。松陰再入獄後の安政六年一月時勢の急迫を察知した松陰は、獄中から門人達へ次々に指令を発するが、頼む高杉、久坂等の門人と意見を異にし、ことごとく事志に反し、遂に激憤して絶食を決意する。この報に接した

百合之助、滝及び文之進は夫々書を認め松陰の短慮を諫めた。特に滝は書面に手作りの食物を添え、「此の品わざわざととのへさし送り候まま、ははにたいし御たべ頼み参らせ候」と嘆願する。遂に孝子松陰は絶食の決意を翻すのである。

滝は繊細な神経を持ちながら極めて楽天家であつた。如何なる事態に遭遇しても狼狽することなく苦面も見せず、自らその場の光明となるうとした。「苦しい、困ったなどの語は女の口にすべき言葉ではない」と自らも戒め、娘たちにも教訓した。明るい家庭、健康な家庭を作ることが女の使命だと信じていた。滝の生家村田家の子女の教育が偲ばれる。

明治の世となり、杉滝の名声は一躍世に顕われ、遂に乙夜の覧に達し、皇太后皇后両陛下より御下賜の榮に浴するに至った。信心深い滝は念佛唱名を以て養老の樂事となし、「生きて朝恩に浴し、死して樂土に遊ぶ、人生の幸福之れに過ぎず」と念佛に感謝した。しかし今、この偉大なる母の名は墓石に刻まれることなく、「杉百之助、同配（配偶者の意）之墓とのみ記されている。

事務局通信

創刊号には主として昭和五十八年度の事業を書いたので本号では五十九年度について記す。

・松陰教学シリーズ1「松陰の教学と杉家」の刊行と贈呈

吉田松陰研究講座での講演を骨子に、三輪稔夫先生と石川稔先生にご執筆願ひ、二千部印刷、県下各小・中・高校、

県教委・地教委関係者・研究団体・報道関係者に贈呈、多くの要望により千部増刷、頒布 国会図書館・米国会図書館の要請により贈呈

・吉田松陰研究講座の開設 前年度に引き続き県生涯教育センターと共催し、県下十ヶ所で開催 受講者一、四四五名

・松陰先生の足跡をたずねる旅 東京・水戸・佐渡へ四泊五日の日程で実施、五名参加

・資料展示室の整備充実 新刊図書購入 一八冊、古書購入 一〇五冊、寄贈図書八冊、松陰先生肖像軸寄贈

・吉田松陰輪読会 八月四日 県教育会と共催、六〇名出席

・研究団体への補助 五団体

(谷口)

